

■ 学校の共通目標

(様式1) 学力向上のための重点プラン【小学校】

新宿区立江戸川小学校

授業づくり	重点	・児童一人一人に問いや考えをもたせ、学び合いを通して思考力・判断力・表現力を育てる問題解決型の授業づくりを行う。	中間評価	・研究の実態調査の結果を踏まえ、どの教科においても、問題解決の流れに沿った展開にしていく必要がある。授業を参観し合い、児童が学び合う場面をどのように指導するか検討し、実施する。	最終評価	・算数の校内研究を通して、学習スタンダードや学習の流れを統一したことにより、どの教科でも問題解決の流れを意識した授業展開が実践されるようになってきている。
		・言語や規則を守る環境を整え、教師や児童がICT機器を活用できるようにし、授業のユニバーサルデザイン化を図る。		・学校としての学習中の規則を再度確認する。ICT機器の活用をさらに進める。児童が活用する場面を設定する。		・校内研究に関連させ、タブレットを児童が活用して問題解決をしたり、学び合いをしたりする授業に取り組むことができた。

■ 学年の取組み内容

学年	教科	学習状況の分析 (10月)	課題 (10月)	改善のための取組み (10月)	最終評価 (2月)	
1	国語	<ul style="list-style-type: none"> 学・ひらがなについては、どの児童も書けるようになっている。 学・文章を書く力には大きな差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・助詞の「は」「へ」、拗音などに課題が見られる。 ・3文程度の文がまだ書けない児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習プリント、朝学習プリントなどで学習内容の復習を行い、学習内容を習熟させる。 ・作文や授業の振り返りなど文章を書く学習を定期的に行い、書く力を伸ばす。書き方の定型なども指導していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートやノートに考えを書けるようになり、文章を書く力がついてきた。助詞の「は」「へ」は特定の児童が苦手としているので、プリントなどで補習を行っている。 ・家庭学習や、朝学習プリントで繰り返し漢字の復習をし、習得することができてきている。「日」「火」などの同音異字を間違えて書く児童がいるので漢字そのものの意味が理解できるようイラストなどを活用して復習している。 	
	算数	<ul style="list-style-type: none"> 学・繰り上がりのない足し算、引き算の習熟状況に差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特に引き算が苦手という児童が多い。 ・自分の考えを友達に話したり、表現したりすることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の宿題などで20までの足し算、引き算の計算を暗算のできるよう練習している。 ・ノート指導を行い、既習を活かして自分の考えを表現できるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習に毎日取り組み、20までの足し算、引き算が暗算でもできるようになってきている。 ・習熟度別少人数指導を行ったことで、一人一人に必要な指導を丁寧にすすめることができた。図・式・言葉を使ってわかりやすくノートに表現する力がついてきた。 	
学年	教科	学習状況の分析 (4月)	課題 (4月)	改善のための取組み (4月)	中間評価・追加する取組み (10月)	最終評価 (2月)
2	国語	<ul style="list-style-type: none"> 学・観点別にみると、低学年は「読む」能力の低下が見られる。 学・漢字や言葉のきまりについては、個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・場面の様子を読み取ったり、登場人物の気持ちを読み取ったりするのに課題が見られる。 ・助詞の「は」「へ」、拗音などに課題が見られる。 ・順序良く文が書けない児童もいる。正しい書き順や、字の形を正しく書くことに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読み取りの場面で、文中の表現に立ち返りながら、場面を読み取ったり、登場人物の気持ちを読み取ったりするようにする。 ・絵日記など、文章を書く機会を増やし、言葉のきまりや、順序良くかけるよう、継続して指導をしていく。 ・書き順や字形を正しく書けるよう、空書きをして確認したり、漢字テストをしたりして、指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音読劇などで登場人物の気持ちを読み取って表現することに引き続き取り組む。 ・助詞の「は」「を」「へ」に関しては9割の児童は、適切に使えるようになってきている。 ・漢字テストでは、8割の児童が満点を取っている。文章を書いたときにペアで交換して読み合ったり、友達と教え合ったりしながら、習った漢字は使うように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新宿区学力定着度調査の場面の様子を読み取る問題でも、学年平均は目標値に近い結果となるなど、改善してきている。 ・新宿区学力定着度調査の文章を書く問題で、目標値と同程度の結果であったが、無回答が増えるなど、課題が見られる。 ・新宿区学力定着度調査の漢字の問題は、正答率が9割を超えて、第1学年の漢字が書けるようになってきている。
	算数	<ul style="list-style-type: none"> 学・「数と計算」の領域の学習内容の習熟に課題が見られる。 学・学習内容の習熟には個人差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な計算も、指を使って計算している児童がいる。 ・どの児童も、自分の考えをもち、説明できるところまでには至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習に継続的に取り組み、1年生の学習内容も復習しながら、習熟できるようにする。また、東京ベーシック・ドリルを活用して基本事項の定着を図る。 ・自分の考えをノートに書き、説明する場面を、取り入れる。ペアで、説明し合う。全体で説明し合うなどの場面を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みの宿題で東京ベーシック・ドリルを全員行った。繰り上がり、繰り下がり計算でつまづきが見られる児童が、どの方法で計算をしているか、見極め、本人が自信をもって計算ができるように、個別に指導していく。 ・9割以上の児童が説明ボード(A4クリアファイル)を活用し、自分の考えを説明することができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新宿区学力定着度調査の計算の問題で、目標値を上回っており、東京ベーシックドリルの活用などの成果が見られる。 ・新宿区学力定着度調査の計算の仕方の説明する問題では、区の平均を上回っている。
3	国語	<ul style="list-style-type: none"> 調・観点別では、「話す・聞く力」に優れ、「書く力」「読む力」に課題がある。 学・話す力は比較的身に付いているが、語彙力・作文力に課題がある。物語文を読み取る力に課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・物語文において、文中の表現に基づいて場面の様子を読み取ることに課題が見られる。 ・漢字の読み書きや言葉の特徴のきまりについての理解に課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文中の表現に基づいて、場面の様子を読み取る力を高めるために、授業の中で読み取ったことをワークシートやノートなどにまとめ発表し合う活動を計画的に位置付ける。 ・定期的に漢字テストを行う。家庭学習では、テストに向けての練習や日々の新出漢字の練習をする。また、習った漢字を使いながら、作文や自分の意見を書くような取り組みを多く取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・詩や物語文について自分の考えをノートに書き、互いに発表し合うことで、場面の様子を読み取ることができた。 ・定期的な漢字テストでは、満点の児童が9割以上であり、漢字の学習の定着ができてきている。毎週の課題の作文では、筋道を立てて自分の思いを書くことができ、朝の会などで発表している。学校行事や、様々な活動が終わった後に、作文を書く機会を多く設け、引き続き書く力をつけていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新宿区学力定着度調査の結果では、目標値を上回っており、物語の読み取りについては、場面の様子や登場人物の気持ちを読み取ることが大きく目標値を上回っていた。 ・定期的に漢字テストを行い、漢字を書くことの定着は出来ているが、漢字を読むことについては、まだ定着が弱い文字がある。新出漢字を学習する際に、多くの熟語に触れさせ、語彙力を広げる。
	算数	<ul style="list-style-type: none"> 調・観点別にみると、3つの観点の正答率が新宿区を上回り、特に「知識・理解」の正答率が新宿区を大きく上回った。 学・特徴となる課題は、「数と計算」の領域における計算の意味と計算の仕方の理解である。具体的な問題場面において、加法や乗法で表すことができる2つの数量の関係を理解させる工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・より立式や作図等、ノートの使い方の原則を決めて、より理解を深めるために、分かりやすい表現ができるようにする。 ・ものさしの目盛を読み取ることや、かさの単位の間隔を理解し、大小を判断することに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・異なる立式を比べて、式の意味を考えたり、分かったことを発表したりする時間を増やし、児童の発表や話し合いに関わるルールを徹底する。教科書の説明を理解するだけでなく、違う問題場面を自力で図表や線分図に表して理解し、それらをもとに自分の考えを説明する機会を多く設ける。 ・具体物を使って大きさの量感を感じたり目盛を読み取ることを日常的に行えたりするように普段からものさしを活用する。また、東京ベーシック・ドリルを活用して基本事項の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の発表や話し合いに関わるルールは、徹底できてきた。式や図、言葉の式、さくらんぼの式などを自分の考えを使って表現したり、友達の考えを読み取ったりすることができるようになった。 ・単位の換算については、引き続き量感をもたせるなどして、指導を行っていく。東京ベーシック・ドリルは、引き続き活用して基本事項の定着を図る。 ・1月の学力定着度テストに向けて、3年の学習内容の振り返りを行い、基礎・基本の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新宿区学力定着度調査では、全体的に目標値を上回っていた。基礎的な学習は身に付いており、計算問題は概ねよく出来ている。問題解決型授業では、自分の考えを表現することが好きで積極的に発表や説明を行った。友達の考えと自分の考えの違いについても気付き、問題の理解を深めることができた。 ・時刻や倍の計算については、年度末に復習を行い、習熟を図る。

4	国語	<p>調 観点別にみると、ほぼすべての観点において目標値を上回った。</p> <p>学 特徴となる課題は、登場人物の気持ちや人柄を会話や文章の記述を元に考えることに課題がみられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 書き順について習熟が十分でない。 大事なことを落とさないように聞き取ることに課題がみられる。 物語文等において、文中の表現に基づいて場面の様子を読み取ることに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字学習では、全員で書き順を確認したり、ペア同士で正しく書けているか見合ったりすることで、正しい書き順を習得させる。 台詞や会話文だけでなく、文章中の情景描写や、他の登場人物の気持ちなどから読み取れることをノートにまとめ、交流する機会を多く取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 書き順に気を付けて丁寧に書こうとする児童が増えてきた。また、漢字を繰り返して練習し、全体的に漢字テストの正答率が向上しつつある。 想像だけで登場人物の気持ちを考えるのではなく、根拠となる文章中の表現やそれまでの読み取りを元に考えられるよう取り組んでいる最中である。 	<ul style="list-style-type: none"> 新宿区学力定着度調査では、書く能力・読む能力・言語についての知識理解技能の項目で区平均を上回っている。普段の学習が多くの児童に定着している。 話す・聞く能力の項目で区の平均正答率を下回っている。得点率の低い児童への支援が必要だと考えられる。
	算数	<p>調 観点別にみると、すべての観点で正答率が目標値を上回り、特に「わり算」の正答率が新宿区を大きく上回った。</p> <p>学 特徴となる課題は、答えの求め方や道筋をわかりやすく説明することである。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 折れ線グラフ全体の形や、傾きから情報を読み取ることに課題がみられる。 考え方や方法を説明する能力に課題がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを、文章や図、式などを使ってノートに記述できるよう、指導していく。また、東京ベーシック・ドリルを活用して基本事項の定着を図る。 ノートに記述したものを、ICT 機器を利用して投影し、指したり言葉を加えたりしながら説明する機会を多く設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> わり算の筆算や、大きな数のわり算などの計算では、自分の考え方を多様な方法でノートに記述できるようになりつつある。今後、児童が苦手意識を感じている図形問題においても、ICT 端末を使ったり具体物を示したりして自分の考えを記述し、説明できるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 新宿区学力定着度調査では、全ての項目で目標値を上回っており、東京ベーシック・ドリルの活用などの成果が見られる。 数学的な考え方の項目では、平均は目標値を上回っているものの得点率の低い児童も数名見られる。普段の授業から、理解度の低い児童へ丁寧に指導していく。
5	国語	<p>調 全体的な正答率では、目標値は達成しており、概ね満足できる状況である。ただし、説明文の内容の読み取りでは、目標値は達成しているものの、全国平均より下回っている。</p> <p>調 領域別、観点別に見ると、「読むこと」の領域のみ、全国平均を下回っている。</p> <p>学 提出された課題やワークテストの状況を見ると、文字を正しく丁寧に書くことに課題がある児童が多い</p>	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の読み書きや言葉の特徴やきまりについての理解に課題が見られる。 物語や説明文の内容の読み取りに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字学習では、気を付けてほしい筆順や箇所、言葉の意味を児童が調べ、発表する等して文字に関する関心を高める。 家庭学習を丁寧にを行う習慣を身に付けさせる。 物語の設定や説明文の構成を正しく読み取るために、必ず叙述に即して読む指導を徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字小テストの結果が90点以下の児童は再テストをして繰り返し練習をしたり「とめ」「はね」「はらい」「おれ」などを、丁寧に書けるように指導をしたりしている。 必ず本文にかえて、根拠をもとに自分の読みを相手に伝えたり、友達の読みを聞いたりする中で、叙述に即して読む習慣が少しずつ身に付いてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な正答率としては、目標値よりも上回っているため概ね満足できる結果となっている。漢字の書きに関しては目標値よりも下回ることから、「とめ」「はね」「はらい」「おれ」などを、丁寧に書く指導は継続して行う必要がある。 ポスターをつくる問題においては、目標値よりも大きく上回ることから、総合で壁新聞を書いたり、社会科でポスターを書いたりなどの、他教科ともつなげた学習が成果として表れた。
	算数	<p>調 どの領域においても、目標値を達成しており、概ね満足できる状況である。</p> <p>学 自分の考えを説明したり、考えを深めたりする活動への意欲や能力に課題がみられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「数と計算」領域の習熟に個人差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 地図から長さを読み取ることに課題が見られる。 全体的な習得率を上げていくことが課題である。 課題が多かったのは小数のわり算の四捨五入で、約30%の児童の理解が不十分であったので、整数のわり算に遡って復習をした。また、問題の読み飛ばしによる誤答が多く、今後は問題文を音読したりアンダーラインを引いたりする方法を用いて、正確な読み取りを身に付けさせていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会科の資料の読み取りにおいても、正確に読み取ることや、地図帳を活用して指導にあたる。 家庭学習の定着を図ったり、個別指導を行ったりする。また、東京ベーシック・ドリルを活用して基本事項の定着を図る。 必要に応じて既習事項の復習を適宜行う。また、問題文を音読したりアンダーラインを引いたりして、正確な読み取りを身に付けさせていく。 ICT 端末を活用して考えを表現させる授業を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会を中心として、地図帳を活用して長さを読み取ることの指導にあたっている。 家庭学習において東京ベーシック・ドリルを活用して基礎・基本の定着を図っている。 比較検討場面では、友達と学び合う時間を確保したり、全体検討場面では ICT 端末を活用して、自分の考えを説明したり、友達の考えを聞いたりして、考えを深めたりする活動を多く取り入れている。 	<ul style="list-style-type: none"> 新宿区学力定着度調査の全体的な正答率としては、目標値よりも下回っており、とりわけ基礎的な問題に関して下回っていることから、基礎基本の定着を図る必要がある。 数と計算領域では、整数のかけ算わり算のひっ算で躓く児童も数人いることから、計算問題の習熟が必要である。 単位数当たりの大きさは目標値よりも大きく上回るため、数直線をかいたり言葉の式で考えたりしたことが、理解につながったと言える。
6	国語	<p>調 全体的な正答率では、目標値は達成している。観点別では、「読む力」に優れ、「書く力」に課題がある。</p> <p>学 読み取る力は比較的身に付いているが、語彙力・作文力に課題がある。助詞や主述の一致などに課題が見られる児童もいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 言葉の学習で、言葉の意味や文法についての理解に課題が見られる。 自分の考えや主張を分かりやすく記述する力に課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 国語辞典を常備させるとともに、分からない言葉を調べることを習慣にさせる。 条件作文を定期的書き、論理的な文章の書き方を習得させる。また、優れた記述や文章構成で書いている児童の作品を互いに読ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 分からない言葉を確認しようとする児童が増えてきた。授業内で扱う言葉の意味はその都度全体で確認していく。 卒業文集の作成までに条件作文を書く回数を増やし、論理的な文章の書き方を習得させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 他教科でも分からない言葉があったら辞書を活用する習慣が付いてきている。 スモールステップで指導に取り組んだ。主張を明確にした文章を書くことができるようになってきたが、区の学力定着度調査の結果からは、依然として書く分野に課題があることが分かる。今後も継続して指導する必要がある。
	算数	<p>調 全体的な正答率では、目標値を下回っている。昨年度と比較して、小数や分数の基礎計算の習熟が十分でない。また、考えを説明する力にも課題がある。</p> <p>学 自分の考えを説明したり、考えを深めたりする活動への意欲・能力ともに二極化している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 基礎計算力に課題がある。 自分の考えを記述する力に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習や授業中の復習などで、東京ベーシック・ドリルの計算部分を活用して、基礎計算の復習と習熟を図る。 毎時間の授業において、問題から課題を見出し、自分の考えを「図」「式」「言葉」を用いて、ノートに書くことができるように指導していく。また、ICT 端末を活用して考えを表現させる授業を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 東京ベーシック・ドリルを、習熟度別算数専科と連携して計画的に実践する。 自分の考えを記述し、説明するという学習過程には慣れてきている。個々の差に応じた支援を行う。ICT 端末を活用した表現は、単元に応じて実践している。教材研究を深め、さらに実践の幅を広げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業や家庭学習において、個々の学習状況に応じて東京ベーシック・ドリルを活用した。整数や小数の基本的な四則計算について習熟を図ることができた。分数の計算は引き続き指導にあたる必要がある。 児童がICT 端末を活用する授業を、道徳や算数で実践することができ、児童も意欲的に取り組んだ。
音楽	<p>学 関心意欲をもって取り組んでいるが音楽の広がりや深まりの点ではまだ浅い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に思いや願いをもって表現し、実現するための技能に課題が見られる。 自分の持ち味、互いの良さに気付き、かわり合いながら演奏を工夫することが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽の美しさを感じ、表現の喜びを感じ取ることができる多様な教材を複数選択する。 本時のめあてをしっかりとらせ、目的に応じた様々な形態のグループやペア、パート練習を通して、協働的に学ぶ力を付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 協働的な活動では、互いを認め合う言葉掛けに重点を置き指導してきた。進んで学習に取り組むことで音楽の要素の表現力の向上に繋げていく。 学習に深まりをもたせるために、中高学年には授業の流れとめあてを示すことにより、児童が主体的に学習に取り組むことができるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の中や朝会、学校行事で音楽発表の機会を増やすことでめあてが明確になり、思いをもって表現活動することができた。 グループ活動やペア活動では、互いの音を聴きあって取り組んでいく過程の中で音楽の表現の深まりを児童自ら成長として実感することができた。 	
図工	<p>学 家庭で生活力を身につける機会が少ないのか、ごく基礎的な作業や、技能が全体的に幼い。</p> <p>学 低学年は発達段階として未熟であるが、高学年はもっと身に付けてほしい点として、お互いの作品から学び合う態度がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な知識、技能を身に付けた上での表現力を向上させることが課題である。 お互いの作品を鑑賞する時間を大切にしながら、学び合う意識をもたせることが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 新しい単元の最初、または、取り扱う道具や表現が変わるたびに、過去の学習を振り返って積み重ね身に付けていくべき基礎学力を養うための指導を行う(確認、振り返り)。 時間に余裕がある時は、積極的にお互いの作品を見合う時間を確保していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎回同じ授業の組み立て方で展開することにより、児童は不安を感じることなく取り組んでいる。説明の後に必ず質問する時間を設定しており、集中して話を聞くことができています。(確認、理解の徹底) 説明の場面で模範的な作品を取り上げ、良い点を解説し、学び合う意識を高めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年、授業の組立て方をおおむね同じにすることで、流石進め方を想像することができ、児童の不安や心配な気持ちを抱えることがなく、安定した気持ちで授業に取り組むことができた。 採点時、友達の作品鑑賞や、自分の作品の発表の時間をとったことで、意識高め、集まりの良さが生かされた。 	

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況

※分量は2 ページ以上となってもよい。